

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-52610

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
A 45 B 15/00

識別記号 庁内整理番号  
8812-3B

⑭ 公開 平成2年(1990)4月16日

審査請求 有 請求項の数 3 (全3頁)

⑮ 考案の名称 折りたたみ傘

⑯ 実 願 昭63-132154

⑰ 出 願 昭63(1988)10月7日

⑱ 考 案 者 上 田 重 雄 神奈川県座間市相模が丘4-7-D452号

⑲ 出 願 人 上 田 重 雄 神奈川県座間市相模が丘4-7-D452号

⑳ 代 理 人 弁理士 池 田 宏

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- 1 折たたみ式骨3と、折たたみ式柄4より成る折たたみ式傘本体2と、上記折たたみ式傘本体2の折たたみ式骨3に取り付けるべき傘布地5よりなる折たたみ傘に於て、上記傘布地5は、傘布地5の周縁の各コーナーの下部に複数形成されている骨先端止め部6を、上記折たたみ傘本体2の折たたみ式骨の最終段目の骨の先端部3Aに、着脱自在に取り付けて、上記折たたみ傘本体2を開くことによつて、折たたみ式骨3に展開できるように構成され、上記骨先端止め部6を最終段目の骨の先端部分3Aから取り外すことによつて、傘布地5と折たたみ傘本体2を別体とすることができることを特徴とする折たたみ傘。
- 2 上記傘布地5の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部6は、袋状の形状と成した傘布地と同じ布地6Aに、骨先端挿入穴7を形成してなる請求項1記載の折たたみ傘。
- 3 上記傘布地5の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部6は、比較的軟質のゴム製部材6Bに骨挿入溝7'を形成してなる請求項1記

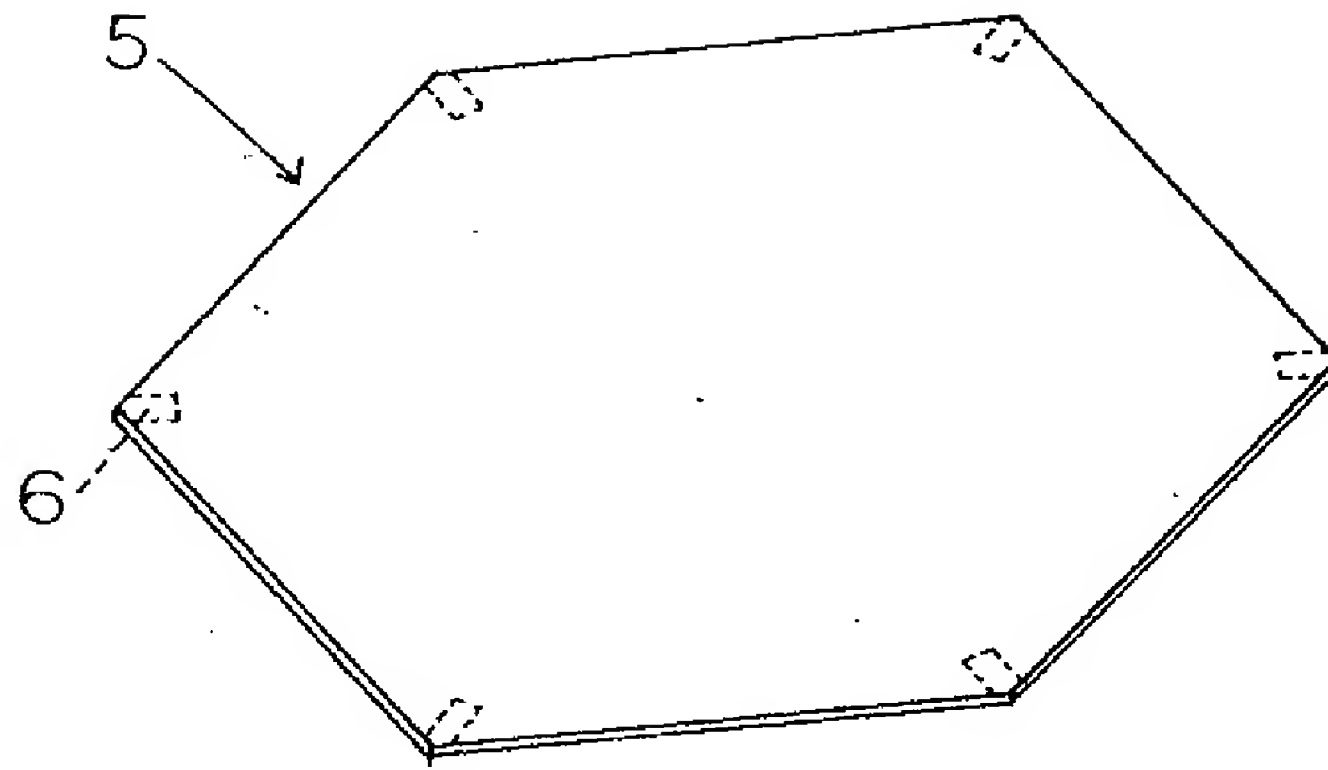
載の折たたみ傘。

図面の簡単な説明

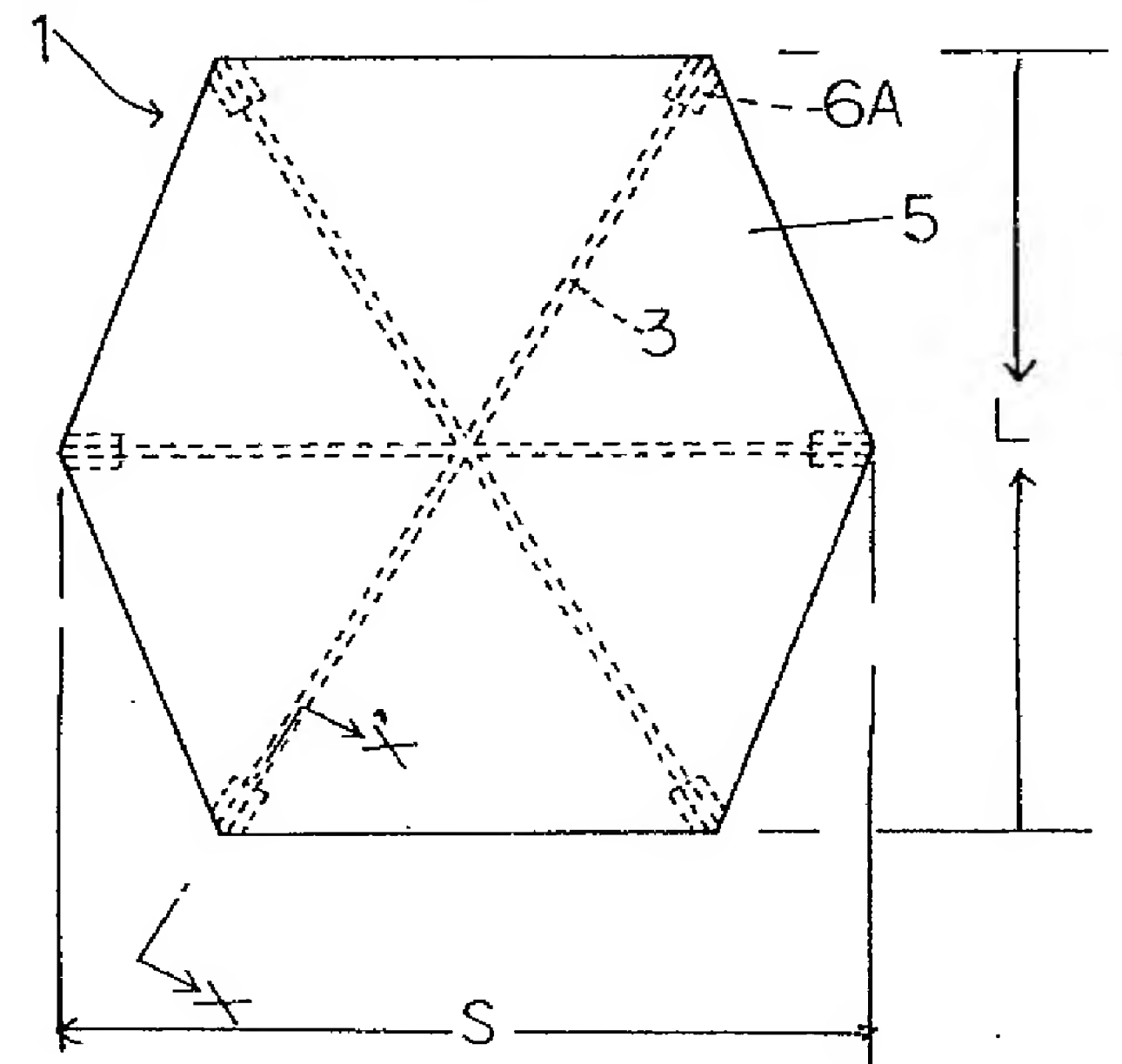
添付図面第1図～第4図は、本考案の第1の実施例を示し、第1図は傘布地の斜視図、第2図は折たたみ傘本体の斜視図、第3図は折たたみ傘本体に傘布地を取り付けて展開した折たたみ傘であり、一人で使用する時の上面図、第4図は骨先端止め部の第1の例を示し、第3図のX-X'線に沿った断面図、第5図は傘布地を折たたんで任意の収容袋に収納するところを示す図、第6図及び第7図は第2の実施例であり、第6図は二人で折たたみ傘を使用する時の折たたみ傘の上面図、第7図は第6図のX-X線に沿った断面図であり、骨先端止め部の第2の例である。

尚、図中、1……折たたみ傘、2……折たたみ傘本体、3……折たたみ式骨、3A……最終段目の先端部分、4……折たたみ式柄、5……傘布地、6……骨先端止め部、6A……袋状に成した傘布地と同じ布地、6B……ゴム性部材、7……挿入穴、7'……挿入溝、8……収容袋、F……進行方向、を示している。

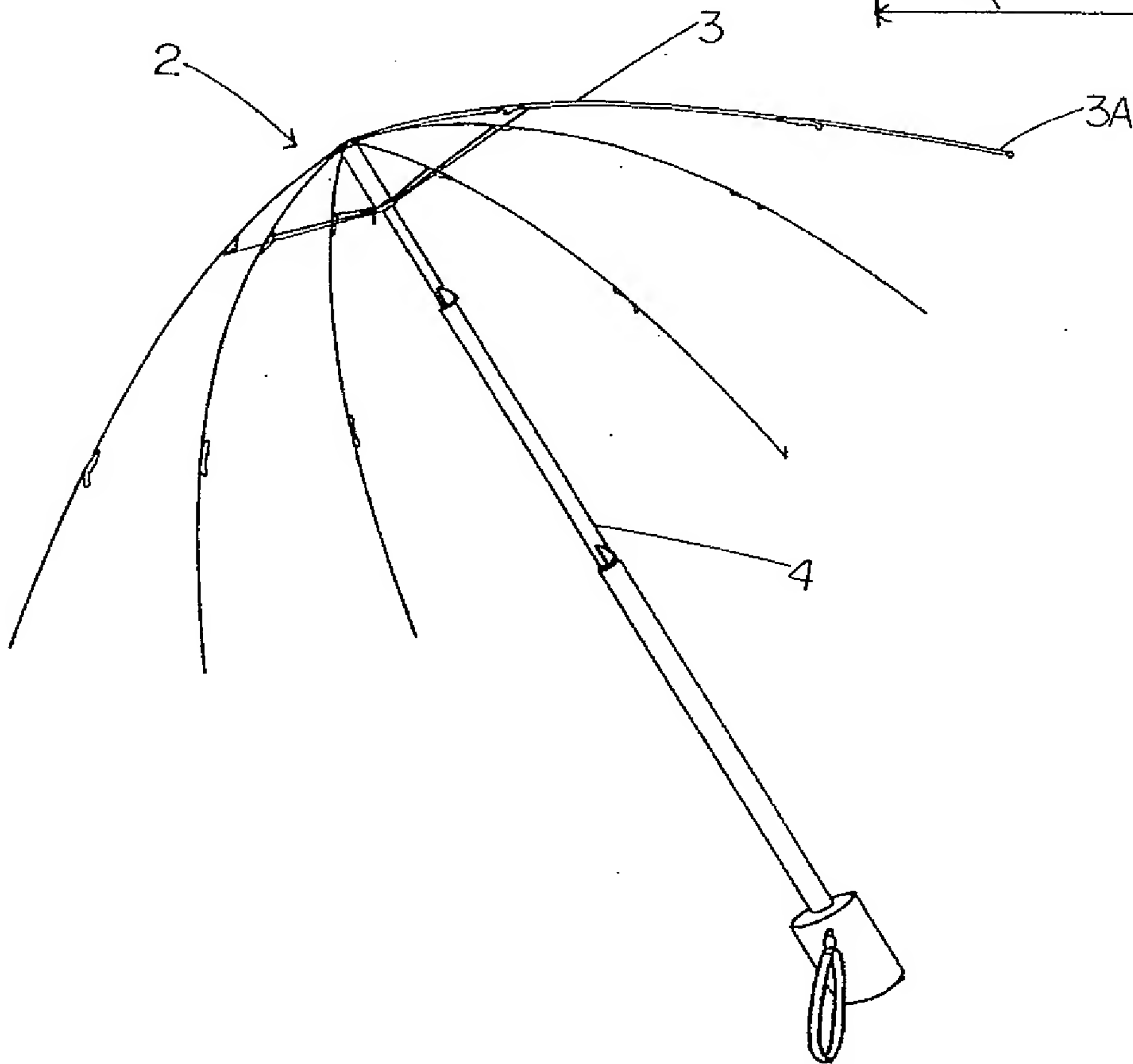
第1図



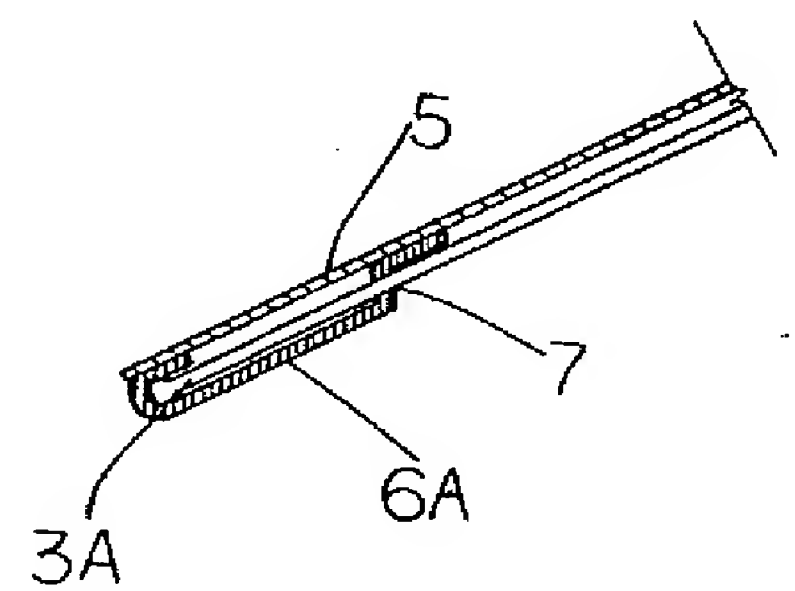
第3図



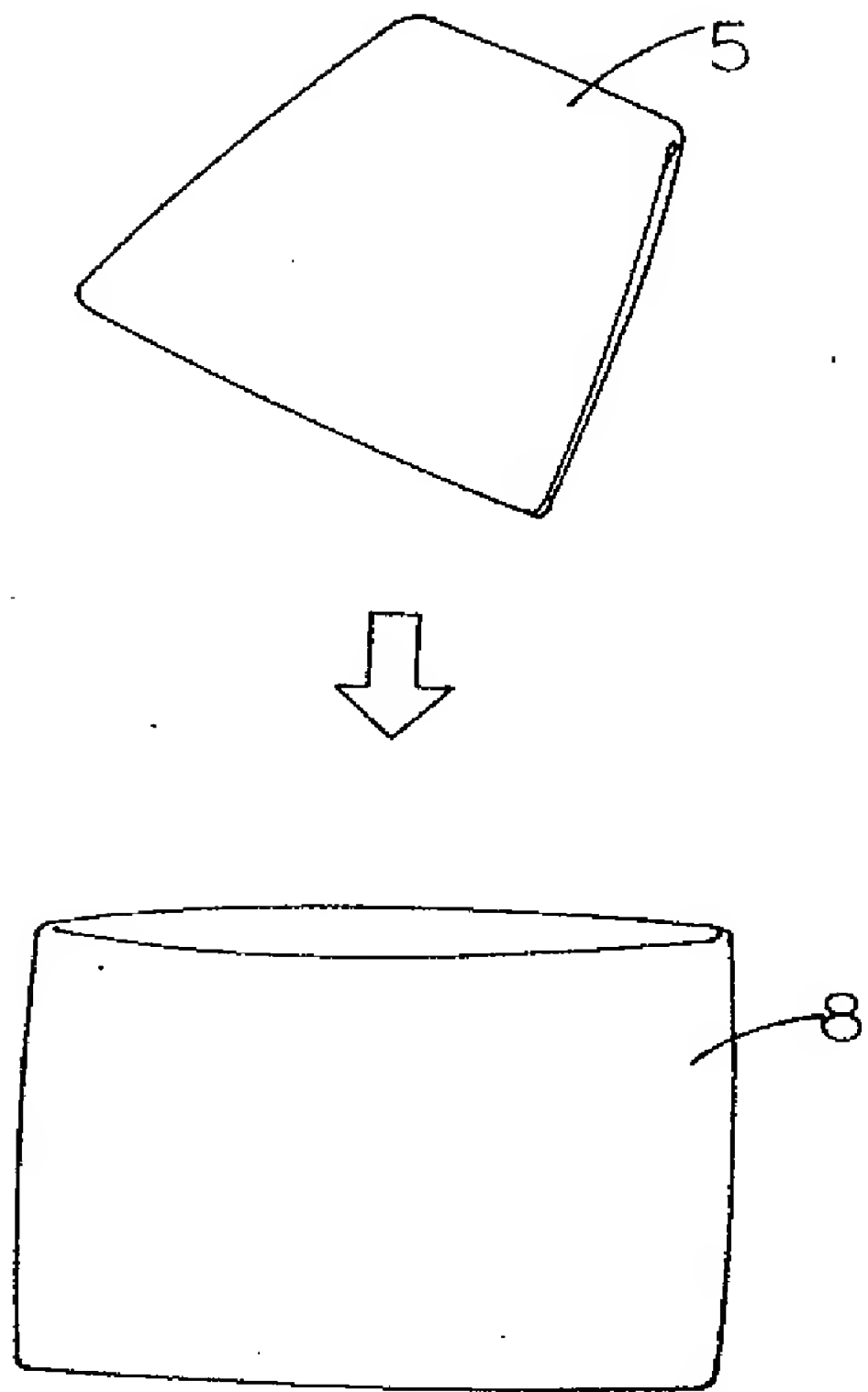
第2図



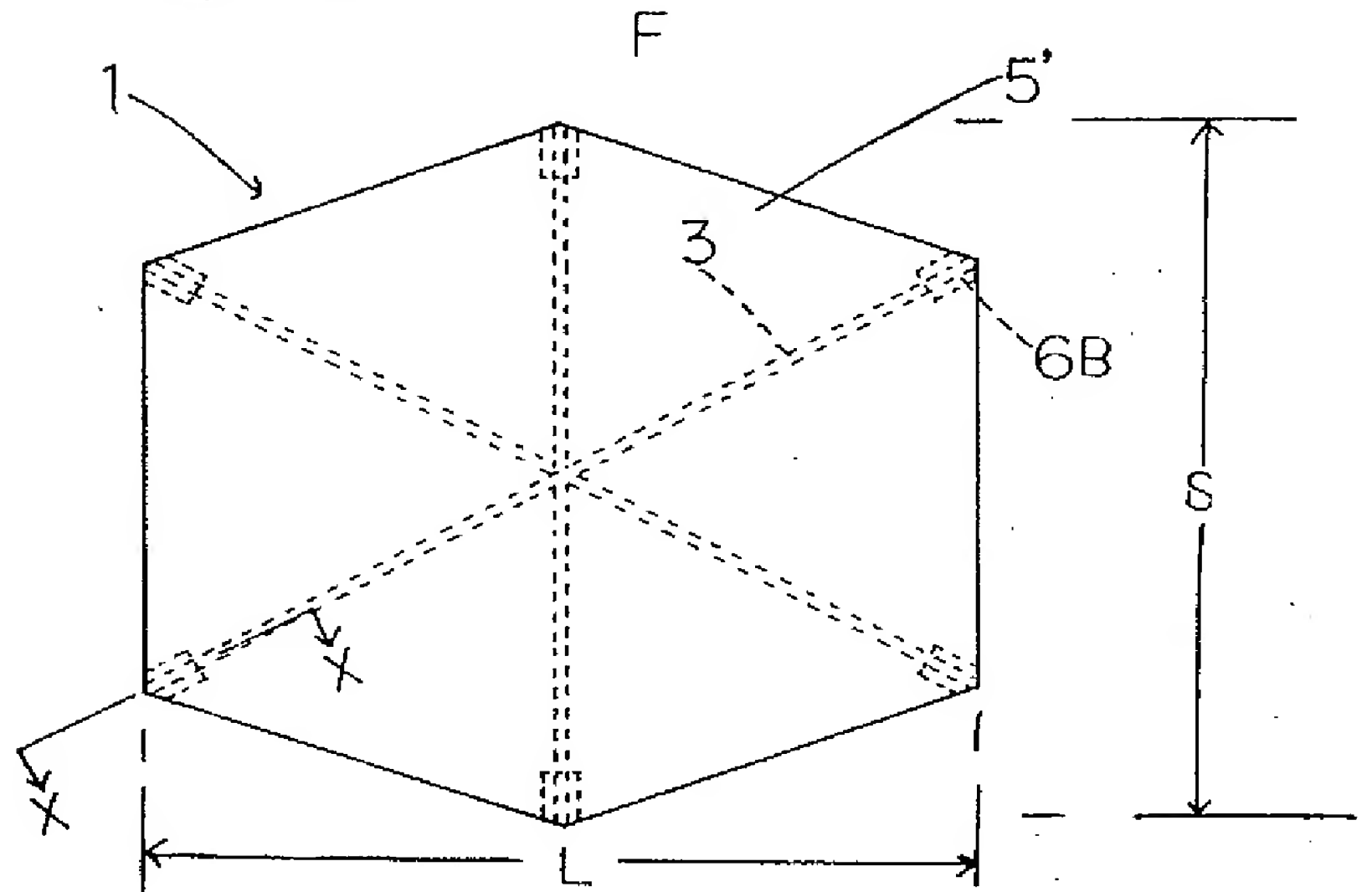
第4図



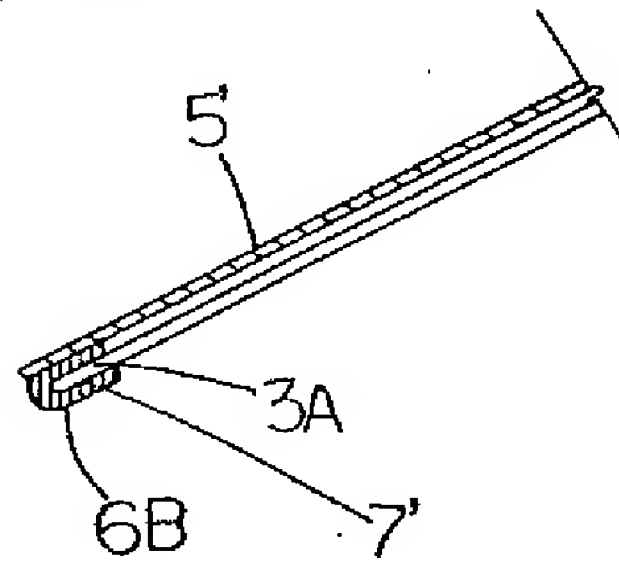
第 5 図



第 6 図



第 7 図



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-52610

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
A 45 B 15/00

識別記号

庁内整理番号  
8812-3B

⑭ 公開 平成2年(1990)4月16日

審査請求 有 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 折りたたみ傘

⑯ 実 願 昭63-132154

⑰ 出 願 昭63(1988)10月7日

⑱ 考 案 者 上 田 重 雄 神奈川県座間市相模が丘4-7-D452号

⑲ 出 願 人 上 田 重 雄 神奈川県座間市相模が丘4-7-D452号

⑳ 代 理 人 弁理士 池 田 宏

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

折たたみ傘

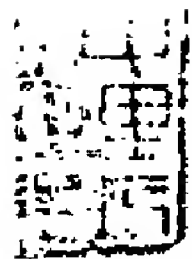
### 2. 実用新案登録請求の範囲

1. 折たたみ式骨3と、折たたみ式柄4より成る折たたみ式傘本体2と、上記折たたみ式傘本体2の折たたみ式骨3に取りつけるべき傘布地5よりなる折たたみ傘に於て、上記傘布地5は、傘布地5の周縁の各コーナーの下部に複数形成されている骨先端止め部6を、上記折たたみ傘本体2の折たたみ式骨の最終段目の骨の先端部分3Aに、着脱自在に取りつけて、上記折たたみ傘本体2を開くことによって、折たたみ式骨3に展開できるように構成され、上記骨先端止め部6を最終段目の骨の先端部分3Aから取り外すことによって、傘布地5と折たたみ傘本体2を別体とすることができるところを特徴とする折たたみ傘

2. 上記傘布地5の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部6は、袋状の形状と成した傘布地と同じ布地6Aに、骨先端挿入穴7を形成し

てなる請求項 1 記載の折たたみ傘

3. 上記傘布地 5 の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部 6 は、比較的軟質のゴム製部材 6 B に骨挿入溝 7 を形成してなる請求項 1 記載の折たたみ傘



### 3. 考案の詳細な説明

#### (産業上の利用分野)

本考案は、折たたみ傘に係るものであり、更に詳しくは、折たたみ式骨と折たたみ式柄より成る折たたみ傘本体と、上記折たたみ傘本体上に配する傘布地を、それぞれ別体と成した考案に関するものである。

#### (従来技術)

周知の通り、雨傘や日傘、あるいはファッション性を考慮した模様や色の各種デザインの、多種多様の傘が用いられている。

通常、これらの傘は、目的に応じた素材やデザインの傘布地、及びこれを展開する為の傘本体より成るものである。

上記傘を使用するに当たっては、従来から、特

に、携帯に便利でコンパクトに収納する目的で、折たたみ傘が普及し多用されている。

上記折たたみ傘は、上記役割を果たす為に、それ自体小さく折たためるよう、傘本体を折たたみ式骨と折たたみ式柄より構成したものであり、特に、携帯時には折たたんでかばん等に収納できるので、前記した通常の傘のように、壁に立て掛けたり傘たてに立てたまま置き忘れてしまうことも少ないことから、有効に使用されているものである。

所が、上記の折たたみ傘も、前記した通常の傘同様、折たたみ傘本体と傘布地が一体的に構成されて成り、傘布地が折たたみ傘本体の骨の各々に対して縫着されて固定されているものであった。

（考案が解決しようとする課題）

上記従来の折たたみ傘は、長い使用実績を有し、コンパクトに折たたんで収納可能で、雨に備えて携帯する時等便利であるものの、次の点に於ては幾つかの不具合を有していた。

即ち、折たたみ傘を折たたむ時には、傘本体を

折たたむと共に各々の骨に縫着されている傘布地を所定通りに折たたまなければならないので、実際に折たたみ傘を使用して雨に濡れた場合、上記濡れた折たたみ傘は、当然のことながら布地が雨で濡れているので、折たたむ時に手が濡れてしまう上に、上記傘布地が水分を含んだ状態であるので、現実には傘布地が水分でベタベタに重なって折たたみ式骨に付着してしまい、折たたみにくい。加えて、濡れた折たたみ傘を携帯する必要があっても、その状態で折たたんでも傘布地が濡れていて実際にかばん等に入れて携帯することはできないので、折たたまずに通常の傘同様に携帯しているのが実状であった。すると折たたみ傘であっても通常の傘同様立て掛けたまま置き忘れてしまう場合が多々あった。

このように、実質上、折たたんでコンパクトに成して携帯できる利点が生かされていないものであった。

従って折たたみ傘ではあっても、雨に備えて予め携帯するときや保管の時等におりたたむだけで、

雨に濡れた折たたみ傘を折たたむことはなく、現実には、あえて折たたみ傘を使用する意味が無い場合が多々あった。

また、傘の使用場所や目的に応じた各種の傘が必要であり、雨傘、日傘は勿論、個々のファッション等に応じた種々の模様や色等の有効なデザインが不加された傘を用意する必要がある。すると、上記目的に応じた素材や、模様、色等の傘布地が配された傘をそれぞれ用意しなければならず、必然的に傘の本数が増えてしまい、収容スペース等の問題も生じ、この改善が望まれていた。

加えて、上記の如く、多数の傘があっても、実際には雨や日差しの強い場合に、そのなかの一本を用いるのみであり、その利用価値を高める要求があった。

本考案は、従来の技術の有するこのような問題点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、折たたみ傘の傘本体を折たたんでコンパクトに成す利点を十分生かした折たたみ傘を提

供するにある。

特に、使用して雨に濡れた状態でも、折たたんでかばん等に収容できるようにし、使用後に傘を立て掛けてまま置き忘れたりすることがない等、折たたみ傘本来の良さを生かそうとするものである。

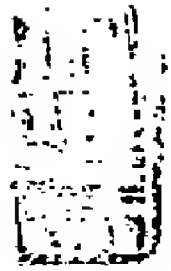
また、たくさんの本数の傘を用意することなく、従来同様目的に応じて使い分けできる手段を提供しようとするものである。

加えて、上記目的を達成した上で、更に付加価値を持たせて、その利用価値を高めようとするものである。

(課題を達成する為の手段)

上記目的を達成する為に、本考案は次の技術的手段を要する。

即ち、本考案は、折たたみ式骨 3 と、折たたみ式柄 4 より成る折たたみ傘本体 2 と、上記折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨 3 に取りつけるべき傘布地 5 よりなる折たたみ傘に於て、上記傘布地 5 は、傘布地 5 の周縁の各コーナーの下部に複数形



成されている骨先端止め部 6 を、上記折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨の最終段目の骨の先端部分 3 A に、着脱自在に取りつけて、上記折たたみ傘本体 2 を開くことによって、折たたみ式骨 3 に展開できるように構成され、上記骨先端止め部 6 を最終段目の骨の先端部分 3 A から取り外すことによって、傘布地 5 と折たたみ傘本体 2 を別体とすることができることを特徴とする折たたみ傘 1 である。

また、上記傘布地 5 の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部 6 は、袋状の形状と成した傘布地と同じ布地 6 A に、骨先端挿入穴 7 を形成したものが考慮される。

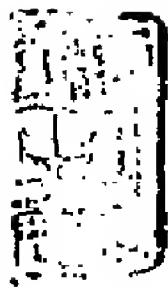
また、上記傘布地 5 の各コーナーの下部に取り付けた骨先端止め部 6 は、比較的軟質のゴム製部材 6 B に骨挿入溝 7' を形成したものが考慮される。

#### (作用)

上記構成に基き、その作用を説明する。

先ず、実際に折たたみ傘 1 を使用する時は、常法

通り折たたみ傘本体 2 を開いて、上記折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨 3 に配された傘布地 5 を展開した状態で用いる。



この時、上記傘布地 5 は、その周縁の各コーナーの下部に複数形成された骨先端止め部 6 . . . が、折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨の最終段目の骨の先端部分 3 A に、それぞれ取り付けられた状態である。

即ち、上記折たたみ傘 1 の傘布地 5 と折たたみ傘本体 2 は、それぞれ別体に構成されているが、上記の如く、傘布地 5 の骨先端止め部 6 を骨先端部分 3 A に取り付けるだけで、常法通り折たたみ傘本体 2 を開くと折たたみ式骨 3 に展開されるものである。

そして、上記の如く実際に折たたみ傘をさして使用するとき以外は、上記折たたみ傘 1 は、その本来の目的通りコンパクトに折たたむものである。

具体的には、雨や雪の際に折たたみ傘 1 を使用した後に、上記濡れた折たたみ傘 1 を携帯する場

合、折たたみ傘本体 2 と、水分を含んで濡れた傘布地 5 を別体と成した上で上記の通り折たたんで携帯するものである。

即ち、先ず傘布地 5 の骨先端止め部 6 を、それぞれ折たたみ式骨の最終段目の骨先端部分 3 A から取り外して、折たたみ傘本体 2 と濡れた傘布地 5 を別々にする。そして、予め、この濡れて水分を含んだ傘布地 5 を小さく折たたんでビニール袋等任意の収容袋 8 に別に入れて他のものを濡らしたりしないようにした上で、他方の折たたみ傘本体 2 と共にかばん等に収容する。従来は、傘布地が折たたみ式骨に縫着されて折たたみ傘本体と一体的に構成されていたので、折たたみ傘本体を折たたむ時には、共に傘布地を折たたみ式骨に合わせて所定通り折返す等の手間がかかったが、上記折たたみ傘本体 2 は、上記の如く、濡れた傘布地 5 を取り外した状態なので、従来のように傘布地 5 と共に一体的に折たたむ手間が省け、折たたみ傘本体のみなので、より簡単に折たためるものである。

このように、使用して雨に濡れた場合でも、傘布地と折たたみ傘本体が別体であるので折たたみ傘の特性をより生かして有効に折たたむことができ、折たたみ傘本来の、コンパクトに収納でき携帯に便利である利点を十分に生かし得るものである。

また、濡れた折たたみ傘を携帯する場合でも、前記の通りコンパクトに折たたんでかばん等に収容して携帯できるので、従来のように傘を立て掛けたまま置き忘れておくことがない。

加えて、使用後乾燥して保管収納する時も、傘布地だけ干せば良く、通常の洗濯物と同様に物干し等に干せるので干し易い。

次に、使用場所や目的、あるいはファッション等に応じて異なる種類の傘を用意する必要があるが、本考案の折たたみ傘に於ては、素材や色、模様の異なる種々の布地を用意しておき、上記布地の中から目的や状況に応じたものを選択して折たたみ傘本体 2 に取り付けて使用する。例えば、傘布地の素材を変えて、雨傘から日傘へ交換した

り、使用者のファッション等に合わせた色や模様  
の傘布地を取り付ける等、必要に応じて使い分け  
る。

このように、傘布地のみを使い分けて使用するの  
で、折たたみ傘本体は一本ですみ、収容スペース  
を取らず、従来のように傘の本数による収納場所  
等の問題が解決できる。また、使用者も、傘布地  
を購入すれば、一本の折たたみ傘を目的や状況に  
応じて各種使い分けできるので、より安価に用意  
することができる。

尚、傘布地 5 は、折たたみ傘本体 2 に取り付け  
て使用しない時は、敷きものや風呂敷代わりに使  
う。

傘布地 5 の骨先端止め部 6 が、袋状の傘布地  
と同じ布地 6 A に骨先端挿入穴 7 が形成されたも  
のであると、上記挿入穴 7 から骨先端部分 3 A を  
出し入れして着脱する。

上記骨先端止め部を形成するに当たっては、その  
素材が傘布地と同様なので加工上有効であり、ま  
た傘布地を風呂敷や敷きものとして用いる際も同

素材で薄いので違和感がない。

傘布地 5 の、骨先端止め部 6 が比較的軟質のゴム製部材 6 B に骨挿入溝 7' を形成したものであると、折たたみ式骨を上記挿入溝 7' に骨先端部分 3 A を挿入して取り付ける。溝状なので比較的容易に挿入し易く、またゴム性なので、折たたみ式骨にゴム製部材 6 B がフィットして安定する。

(実施例)

次に本考案の実施例を添付図面に従って詳細に説明する。

周知の通り、雨傘、日傘は当然のことながら、ファッション性を考慮した各種模様や色、素材等の傘布地及び傘本体より成る、多種多様の傘が用いられている。

そして、特に、コンパクトに収納して、携帯したり保管する目的に於ては、折たたみ傘が普及し、多用されている。

上記折たたみ傘は、傘本体を折たたみ式と成して、それ自体小さく折たためるように構成された

ものであり、上記折たたみ傘本体の折たたみ式骨の各々に対して、前記の如き目的に応じた傘布地を縫着して固定していた。



本出願人は、折たたみ傘の目的を考慮した上で、上記従来の折たたみ傘本体と傘布地を別体と成した。

第1図～第4図に、上記本考案の折たたみ傘1の例を示した。

即ち、本考案の折たたみ傘1は、第1図及び第2図に示した傘布地5及び折たたみ傘本体2より構成し、上記折たたみ傘本体2に傘布地5を取り付けて使用するよう成したものである。

上記折たたみ傘本体2は、常法通り折たたみ式骨3及び折たたみ式柄4より成り、この例では図示する如く6本の折たたみ式骨3・・・を形成し、傘を開いてさした時に、第3図の如く展開面の対角線の幅の双方をそれぞれL、Sとした。

また、上記傘布地5には、図示する通りその周縁の各コーナーの下部に、骨先端止め部6・・・を形成し、上記骨先端止め部6・・・を、上述した

それぞれの折たたみ式骨の最終段目の骨先端部分 3 A に止めることにより、第 3 図の如く傘布地 5 を折たたみ式骨上に展開できるように成したものである。

第 4 図は、第 3 図の X—X' 線に沿った断面図である。

図示するように、この例では骨先端止め部 6 として、傘布地と同じ布地を用いて袋状に成して骨挿入穴 7 を形成し、上記袋状布地 6 A の骨挿入穴 7 から折たたみ式骨の最終段目の骨先端部分 3 A を出し入れすることにより、上記折たたみ傘本体 2 と傘布地 5 を着脱自在に構成したものである。

所で、折たたみ傘は、本来、コンパクトに折ためる利点があることは前記した通りである。而して、従来に於ては、傘本体を小さく折りたためるように構成しているものの、通常の傘同様上記折りたたみ式傘本体の折りたたみ式骨に傘布地が固定されている為、折たたみ傘を折たたむ時には、傘本体を折たたむと共に各々の骨に縫着され

ている傘布地を所定通り一体的に折たたまなければならなかった。すると、実際に折たたみ傘を使用して雨に濡れた場合、上記濡れた折たたみ傘は、当然のことながら布地が雨で濡れているので、折たたむ時に手が濡れてしまう上に、上記傘布地が水分を含んだ状態であるので、現実には布地がベタベタに重なって折たたみ式骨に付着してしまい、折たたみにくかった。また、濡れた折たたみ傘を携帯する場合は、その状態で折たたんでも傘布地が濡れていて実際にかばん等に入れて携帯することはできないので、折たたまずに通常の傘同様に携帯しているのが実状であった。すると折たたみ傘であっても通常の傘同様立て掛けたまま置き忘れてしまう場合が多々あった。

このように、実質上、折たたんでコンパクトに成す、折たたみ傘の利点が十分生かされていないものであった。

従って折たたみ傘であるにも関わらず、予め雨に備えて携帯する時や、保管の時等に折りたたむだけで、傘布地が雨に濡れている場合等、携帯する

必要があっても折たたんでいないのが実状であり、現実には、あえて折たたみ傘を使用する意味が無い場合が多々あった。

また、傘の使用場所や目的に応じた各種の傘が必要であり、雨傘、日傘は勿論、個々のファッション等に応じた種々の模様や色等の有効なデザインが付加された傘を用意する必要がある。すると、上記目的に応じた素材や、模様、色等の傘布地が配された傘をそれぞれ用意しなければならず、必然的に傘の本数が増えてしまい、収容スペースを取るにも関わらず、このように多数の傘があっても、その一部を雨や日ざしの強い日等のみ用いるだけである。

そこで、本出願人は、上記構成の折りたたみ傘1を提案することにより、折りたたみ傘本来の利点を生かした上で、上記従来の不具合を改善し、更に、その利用価値をも高めたものである。

以下、上記本考案の折りたたみ傘1の具体的な使用法を説明する。

先ず、実際に折たたみ傘1を使用する時は、常

法通り折たたみ傘本体 2 を開いて、第 3 図の如く  
上記折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨 3 に配され  
た傘布地 5 を展開した状態で用いる。



この時、上記傘布地 5 は、その周縁の各コーナ  
の下部に複数形成された骨先端止め部 6 . . .  
が、折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨の最終段目  
の骨の先端部分 3 A に、それぞれ取り付けられた  
状態である。

即ち、先ず折たたみ傘である折りたたみ式骨 3 及び  
折りたたみ式柄 4 を所定通り開いて、傘をさせる  
ようにする。次に、第 4 図に示す通り、上記折た  
たみ傘 1 の傘布地に形成された袋状布地 6 A の挿  
入穴 7 に、それぞれの折りたたみ式骨の最終段目  
の骨先端部分 3 A を挿入して、常法通り傘本体を  
開いて傘をさす。すると、上記傘布地 5 は、折り  
たたみ式骨 3 に展開するように構成されているの  
で、従来同様使用できるものである。

所で、従来から傘を使用するに当たっては、当  
然のことながらその使用場所や目的、あるいは  
ファッション等に応じて種々の傘を用意し、使い

分けていることは前記した。

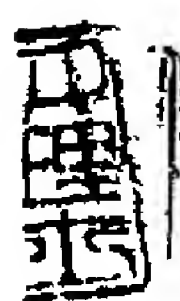
上記本考案の折たたみ傘 1 に於ては、素材や色、模様の異なる種々の傘布地 5 . . . を用意しておき、上記複数の傘布地 5 . . . の中から目的や状況に応じたものを選択して、上記の如く折たたみ傘本体 2 に取り付けて使用する。

例えば、傘布地の素材を変えて、雨傘から日傘へ交換したり、使用者のファッション等に合わせた色や模様の傘布地を取り付ける等、必要に応じて使い分ける。

このように、傘布地 5 のみを取かえて使用することができるので、折たたみ傘本体 2 は一本ですむものである。そのため、収容スペースを取らず、従来のように傘の本数による収納場所等の問題が解決できる。また、使用者も、一本の折たたみ傘本体 2 に対して傘布地 5 を各種購入すれば、従来同様目的や状況に応じて使用できるので、低価格で用意することができるものである。

また、折りたたみ傘 1 を実際に使用するとき以外は、その本来の目的通り折りたたんでコンパクト

トに成して、携帯したり収納保管する。



例えば、雨や雪の際に折たたみ傘 1 を使用した後、上記濡れた折たたみ傘 1 を携帯する場合、折たたみ傘本体 2 と、水分を含んで濡れた傘布地 5 を別体と成した上で、上記の通り折たたんで携帯するものである。

即ち、先ず傘布地 5 の骨先端止め部 6 A の挿入穴 7 から、それぞれ折たたみ式骨の最終段目の骨先端部分 3 A を取り外して、折たたみ傘本体 2 と濡れた傘布地 5 を別々にする。

そして、第 5 図に示す通り、予めこの濡れて水分を含んだ傘布地 5 を小さく折たたんでビニール袋等任意の収容袋 8 に別に入れる。すると、傘布地 5 の水分が他のものを濡らしたりしない。この状態で、折たたんで収容袋 8 に入れた傘布地 5 、同様に折りたたんだ折りたたみ傘本体 2 を、かばん等に収容する。

上記折たたみ傘本体 2 は、上記の如く、濡れた傘布地 5 を取り外した状態なので、従来のように傘布地 5 と共に一体的に折たたむ手間が省け、折た

たみ傘本体のみなのでより簡単に折たたむことができる。

このように、使用して雨に濡れた場合でも、傘布地と折たたみ傘本体が別体であるので折たたみ傘の特性をより生かしてより有効に折たたむことができるので、折たたみ傘本来の、コンパクトに収納可能で携帯に便利な利点を十分に生かすものである。

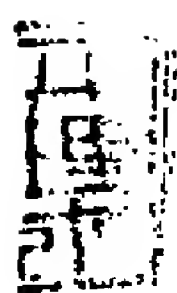
すると、濡れた折たたみ傘を携帯する場合でも、傘布地が濡れていても、別にビニール袋等に入れることができ、コンパクトに折たたんでかばん等に収容して携帯できるので、傘を立て掛けたまま置き忘れておくことがない。

加えて、使用後乾燥して保管収納する時も、傘布地だけ干せば良く、通常の洗濯物と同様に物干し等に干せるので干し易い。

また、傘布地は、折たたみ傘本体2に取り付けて使用しない時は、敷きものや風呂敷代わりに使っても良い。

上記傘布地5の骨先端止め部6は、傘布地5と同

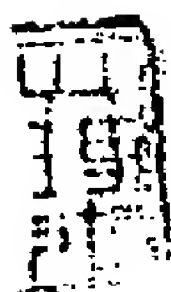
じ布地 6 A を用いているので、一体的に加工もし易く、上記の如く風呂敷や敷きものとして使用する際、同素材で薄いので違和感がなく使用できる。



第 6 図は、上記同様の形状の傘布地 5' の、骨先端止め部 6 を、第 7 図の如く成した本考案の第 2 の実施例である。

第 7 図に示す通り、骨先端止め部 6 として比較的柔軟なゴム製部材 6 B を用い、挿入溝 7' を形成した。

上述の第 1 の例と同様、折たたみ傘本体 2 の折たたみ式骨の先端部分 3 A を上記挿入溝 7' 間に挿入して取り付けるものである。図示する通り細い溝状なので骨先端部分 3 A が挿入溝 7' に沿って容易に挿入し易く、またゴム製の挿入溝 7' 間にフィットして取り付けることができる。よって、第 6 図に示した上記傘布地 5' を取り付けてさした傘 1 は、上記の如く止め部がゴム性部材 6 B なので傘布地 5' が折たたみ式骨 3 によりフィットして安定する。



また、第6図は、図示する通り、進行方向Fに対して、横幅をLとしてさしている。このようにして用いると、一本の傘に二人で入って並んで歩いても、横幅Lが長いので、どちらも肩が濡れたりすることがなく使い易い。

同様に、第3図に示したように、一人で使用する場合は、このように進行方向Fに対して縦幅をLとした状態で用いると、より有効である。この他、風の方角等も考慮して好適に使用することができる。

また、上記の骨先端止め部の二つの例は、どちらも最終段目の骨の最先端が露出しないように構成してあるので、使用時に他者に当たったり、あるいは目に刺さったりすることが無く、人込みの中で使用しても安全である。

尚、図示していないが、上記の、対応する各コーナーの骨先端止め部6を連結し、傘を開いた時に骨の当たる部分が補強されるように、布地6Aやゴム製部材6Bを配しても良い。

(考案の効果)

本考案は、上述の通り構成されているので、次に記載する効果を奏する。



即ち、上記傘布地に、折たたみ傘本体の各々の折たたみ式骨の最終段目の骨の先端部分を着脱自在に取り付けられる複数の骨先端止め部が形成されているので、使用時には、上記止め部に折たたみ式骨を取り付けて公知の通り折たたみ傘本体を開くだけで常法通り傘として使用できるのは勿論、傘布地と折たたみ傘本体を別体とすることができるので、折たたみ傘を使用して雨に濡れた場合でも、傘布地を取り外して、この濡れて水分を含んだ傘布地を小さく折たたんでビニール袋等任意の収容袋に別に入れて他のものを濡らしたりしないようにした上で、他方の折たたみ傘本体と共にコンパクトにかばん等に収容することができる。また、この時、上記折たたみ傘本体は、上記の如く濡れた傘布地を取り外した状態なので、従来のように傘布地と共に一体的に折たたむ手間が無く、折たたみ傘本体のみなのでより簡単に折たたむことができる。このように、使用して雨に濡



れた場合でも、傘布地と折たたみ傘本体が別体であるので折たたみ傘の特性をより生かして有効に折たたむことができる。従って、折たたみ傘本来の、コンパクトに収納でき携帯に便利である利点を十分に生かしてその効果を発揮し、使用後に傘を立て掛けたまま置き忘れたりすることもない、等実用上各種の利点を有する。

同様に、傘布地を折たたみ傘本体に取り付けて使用するので、素材や色、模様の異なる種々の傘布地を用意すれば、一本の折たたみ傘本体の傘布地を変えるだけで雨傘から日傘等への交換もでき、従来同様使用場所や目的あるいはファッション等に応じて使い分けできる。また、このように、傘布地のみを使い分けて使用するので、折たたみ傘本体は一本ですみ、従来のように傘の本数による収納場所等の問題が解決できると共に、購入者も、目的や状況に応じて使用する各種の折たたみ傘を、より安価に用意することができるものである。

加えて、使用後乾燥して保管収納する時も、傘



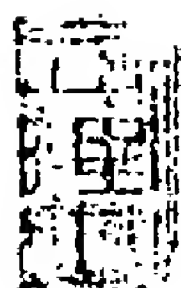
布地が別体なので干し易く、また傘布地を折たたみ傘として使用しない時は、敷きものや風呂敷代わりに使うこともできる、等実用上各種の利点を有する。

請求項 2 の折たたみ傘に於ては、骨先端止め部を、傘布地と同じ布地を用いて、袋状に成し骨先端挿入穴を形成するので、加工上有効であり、また傘布地を風呂敷や敷きものとして使用する際も同素材で薄いので違和感がない。

請求項 3 の折たたみ傘に於ては、骨先端止め部が比較的軟質のゴム製部材に骨挿入溝を形成したものであるので、折たたみ式骨を上記溝に沿って容易に挿入し易く、ゴム性なので折たたみ式骨にフィットして安定する利点がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

添付図面第 1 図～第 4 図は、本考案の第 1 の実施例を示し、第 1 図は傘布地の斜視図、第 2 図は折たたみ傘本体の斜視図、第 3 図は折たたみ傘本体に傘布地を取り付けて展開した折たたみ傘であり、一人で使用する時の上面図、第 4 図は骨先

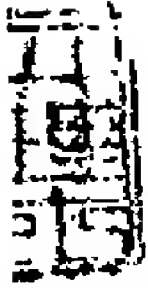


端止め部の第 1 の例を示し、第 3 図の X—X' 線に沿った断面図、第 5 図は傘布地を折たたんで任意の収容袋に収納するところを示す図、第 6 図及び第 7 図は第 2 の実施例であり、第 6 図は二人で折たたみ傘を使用する時の折たたみ傘の上面図、第 7 図は第 6 図の X—X 線に沿った断面図であり、骨先端止め部の第 2 の例である。

尚、図中

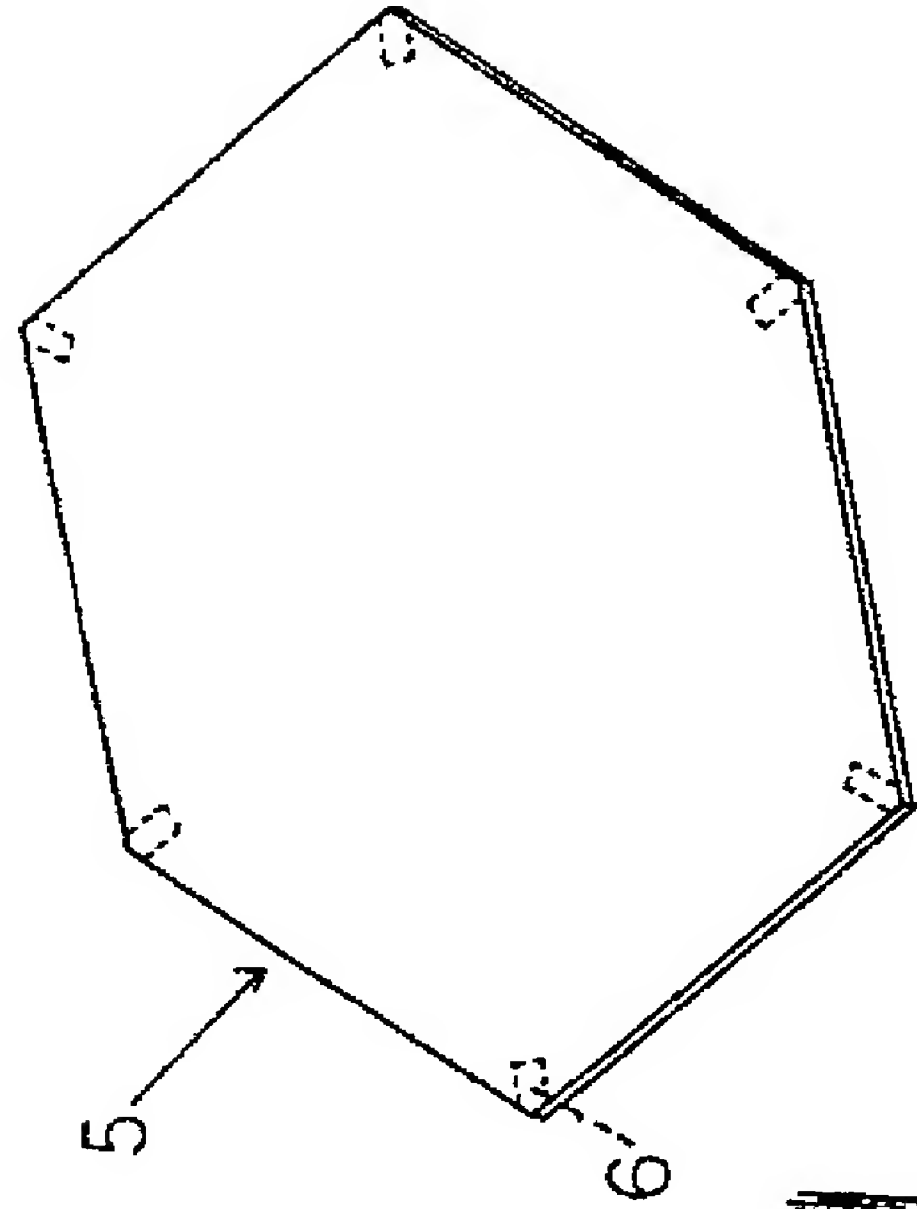
- 1 . . . 折たたみ傘
- 2 . . . 折たたみ傘本体
- 3 . . . 折たたみ式骨
- 3 A . . . 最終段目の先端部分
- 4 . . . 折たたみ式柄
- 5 . . . 傘布地
- 6 . . . 骨先端止め部
- 6 A . . . 袋状に成した傘布地と同じ布地
- 6 B . . . ゴム性部材
- 7 . . . 挿入穴
- 7' . . . 挿入溝
- 8 . . . 収容袋

Ｆ．．．進行方向  
を示している。

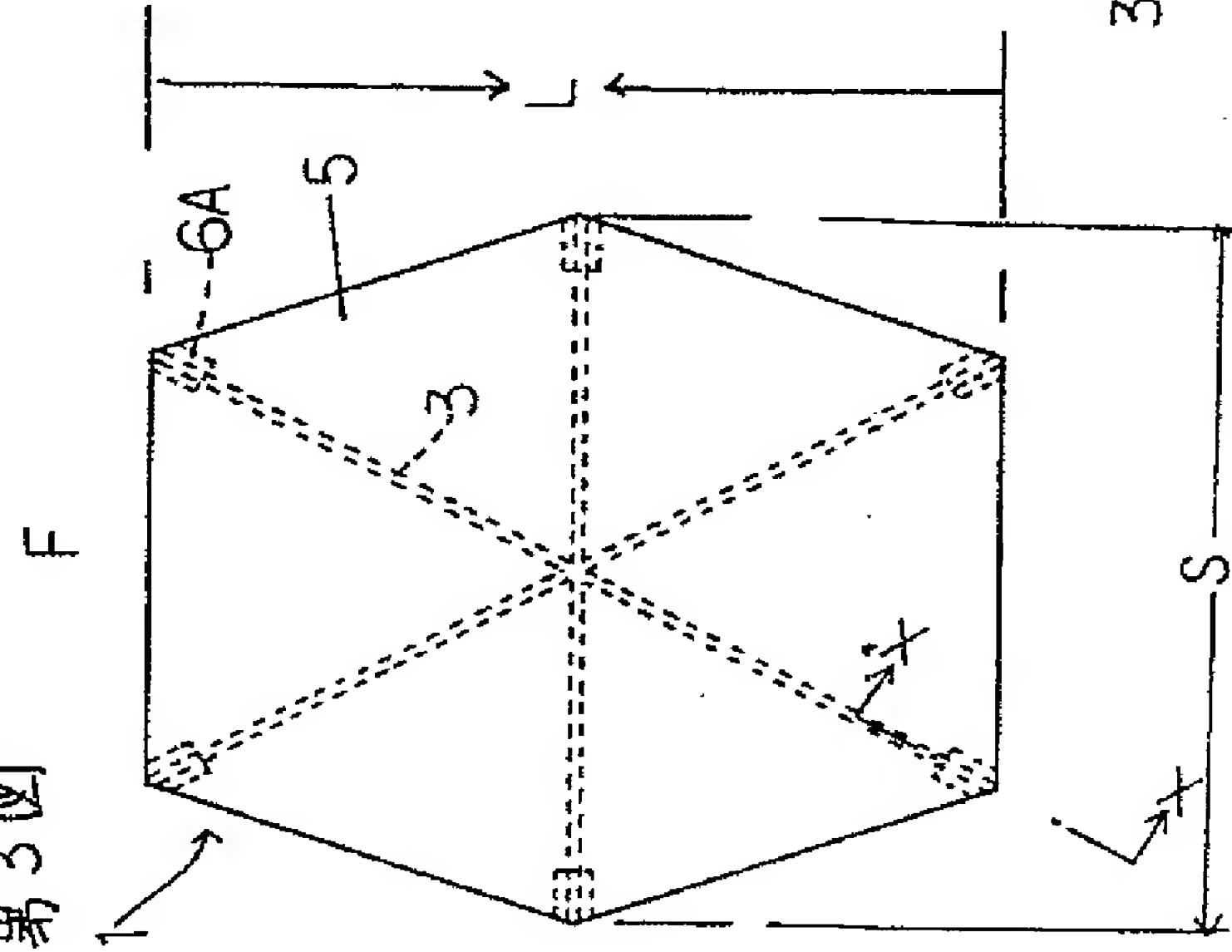


代 理 人      弁 理 士      池 田      宏

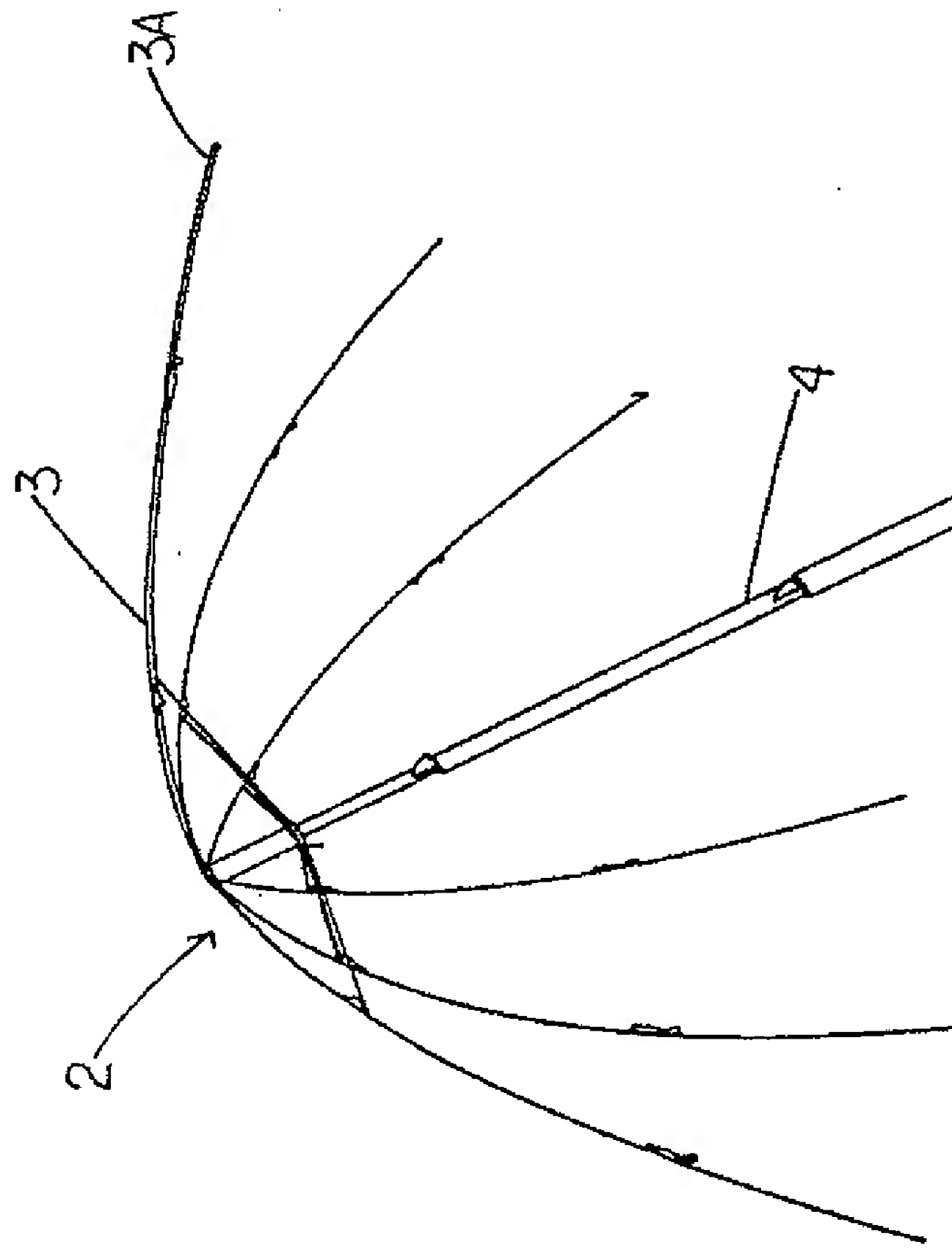
第1図



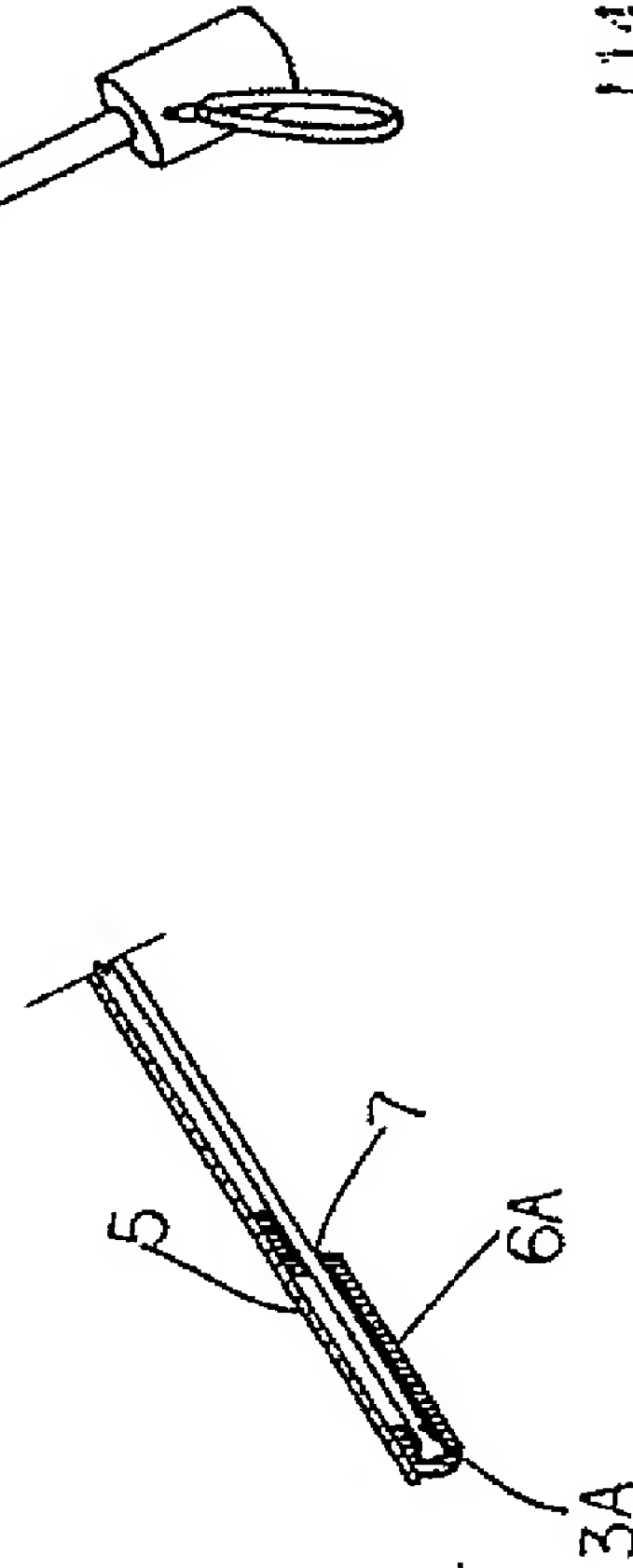
第3図



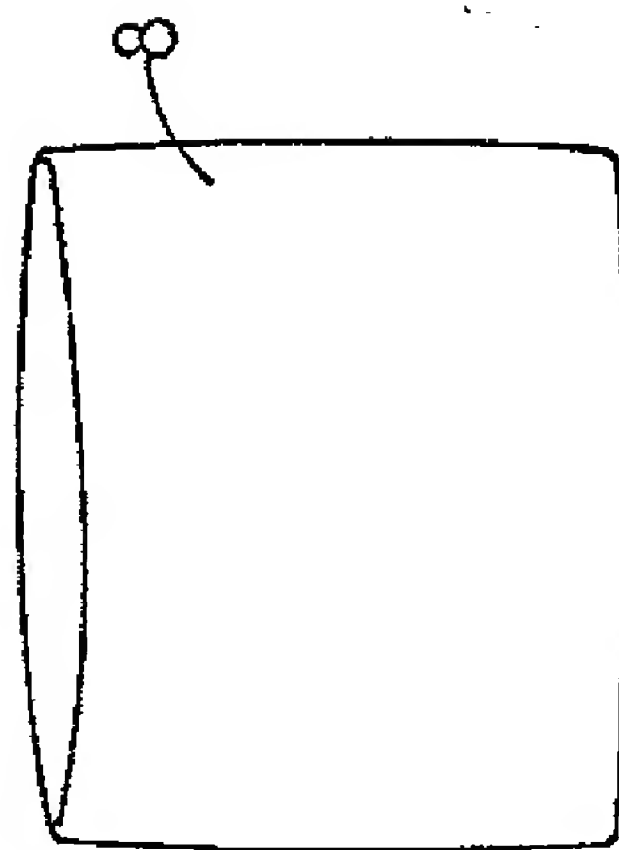
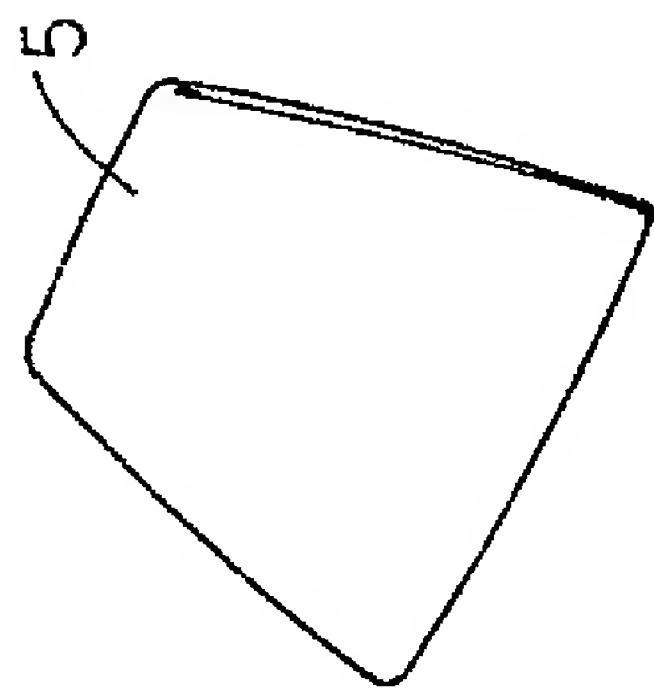
第2図



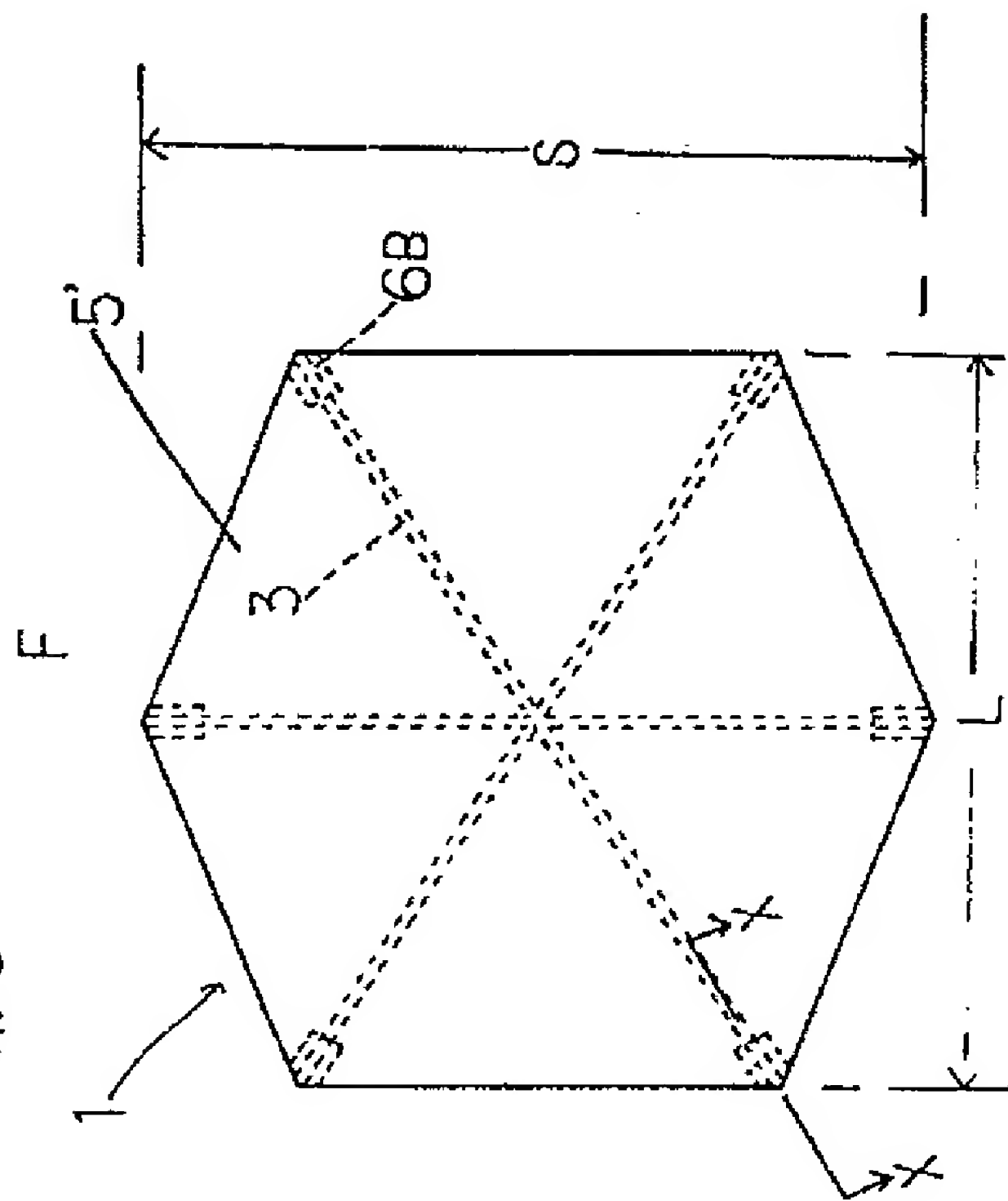
第4図



第5図



第6図



第7図

